



TOP INTERVIEW

東北トップ インタビュー

潜在力を秘めている東北には伸びしろがあり、
今後の成長が期待される

日本銀行
仙台支店長 たけうち **竹内** あつし **淳** 氏

聞き手
帝国データバンク 仙台支店長 岩城 大一

コロナ禍による供給制約やウクライナ紛争、そして今年3月以降の急激な円安により、物価高騰が東北経済にも大きな影響を与えている。一方で海外旅行者の規制撤廃もあり、インバウンドを追い風によりやく景気回復の兆しも見え始めるなど、景気の先行きについて不透明感が強まっていることも事実であろう。そこで今回は、今年6月に日本銀行仙台支店長に就任した竹内淳氏に、東北経済の課題と強みや、日本銀行の取り組み、東北経済の見通しなどについてお話を伺った。

仙台支店長に就任されて半年が過ぎましたが、東北に住んでみた印象等、現在の心境をお聞かせください

仙台に来て感じたことは、非常に交通の便が良いということです。東京から新幹線で約1時間30分ですし、地理的にも東北の要として機能していると思います。仙台市中心部には全国的に見ても大きな商店街が連なっていますし、小売・サービス業が栄えているという感じがします。サービス業においては幅広い層で、消費者・働き手としても人々を引き寄せるため、賑わいを生むことで活気づきますから、それが仙台の魅力を生んでいると感じています。

そして仙台での生活を、非常に快適に過ごしています。今まで嫌な思いをしたことがありません。この話をすると東北出身の人が「ほめすぎだ、そんなことはない」と言いますが、挨拶、交通ルールを守る、車の譲り合いやマナーの良さには感心します。

東北経済の現状認識について伺います

日本経済全体がそうですが、欧米、アジアでは1年前から行動制限を撤廃している国もあるなかで、コロナ禍による行動制限が他の国と比べても長期間続いたために、今まで消費を控えてきた分、消費への欲求も蓄積しており、ここに来て需要が盛り上がる可能性があります。日本の場合はこれから、景気のサイクルがようやく改善する方向で回りだすと思います。ウィズコロナを背景にした景気が欧米に比べて立ち上がったばかりなので、逆に持続性のある形で回復に向かっていくと思います。

供給制約の影響も続いています。少なくとも中国・上海のロックダウンが解除された今年6月以降、中国発の供給制約は緩和されてきています。深刻化していた自動車向け等の半導体不足も、ひと頃に比べると持ち直しの傾向もあります。東北は電子デバイス、半導体製造装置などの生産用機械製造が盛んな地域でありますので、コロナ禍を経て世界の企業がDX等に投資を増やしている潮流にうまく乗れば、経済活動の活発化が

期待されます。個人消費や、生産活動はある程度順調に推移しているのが今の状況だと思います。

ただし、様々なリスク要因があります。海外経済がコロナ禍からの回復ということで、昨年ぐらゐまで比較的順調だったわけですが、米国の中央銀行（FRB）がインフレ抑制のため利上げを急いでいることもありますし、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格上昇もあります。こうした状況から世界経済は減速しつつあるため、今後東北経済にまで波及する可能性があります。

設備投資に関しては、これまでのところ比較的旺盛です。足元では海外経済の下振れリスクはあるものの、企業は比較的中長期的な成長に関しては自信を持っているというのが現時点の判断です。人手不足への対応、サプライチェーンの強靱化、DX、脱炭素などやらなければならないことが山積みになっています。ここで投資をしていかないと5年、10年後に生き残れないという危機感もあります。そういう意味では、今のところ特に製造業の設備投資計画は非常に強いと認識しています。しかしながら、海外経済が悪化してくると、日本経済全体では輸出依存体質が強いため、回りまわって東北の企業の中でも、投資の縮小や投資時期の遅れというリスクは出てくると思います。

支店長が考える東北経済の課題と強みは何でしょうか

東北経済の課題としては、全国に比べて少子高齢化が進んでいることです。構造的な課題を抱えていることが一番大きいと思います。これは難しい課題です。少子高齢化を止めることはできませんが、どうやってそのペースを遅らせるか、関連して発生する人手不足にどう対応するか、東北のなかでも発展している地域と過疎化が進む地域の格差が拡大しているため、課題の深刻度合いも開いていると言えるでしょう。

また、東日本大震災からの復興という観点では、ハード面は整備されましたが、未来永劫予算が付くわけではありませんので、東北で自立しなければならないと思います。このため、地域の復興、活性化が課題解決のためにも必須です。

そのほか全国、グローバルで展開している地元企業が少ないこともあげられます。近年、東北にはトヨタ自動車や東京エレクトロン、キオクシア等世界的な大企業が進出しています。こうした企

業の共通の悩みが、自分たちが要求している水準に達している企業が少ないため、なかなか地元企業からの調達が増えないということです。結局は関連企業を東北に招く状況になっています。東北へ進出する企業にとっても、サプライチェーンを強靱化するためには、東北の中で調達できるものを増やしたいわけです。地場企業の技術水準を高めることも課題だと思います。

課題があるということは、伸びしろがあるということにもなります。全国的にみても工場進出で実績を上げており、製造業の拠点になりうる可能性が高いことは強みです。例えば、経済産業省が毎年発表している2021年の「工場立地動向調査」では、進出した工場の面積ベースが過去10年で最大で、面積は関東地方、東海地方に次ぐ3位です。各種アンケート調査なども考慮すると、その要因は、行政による積極的な支援があります。工業団地の整備を通じて誘致しようというマインドが感じられます。また、交通インフラが発展しており、特に高速道路は、被災地沿岸部の復興支援道路も整備されています。そして水が豊か、これも様々な産業に有利となります。太陽光や風力等の再生エネルギーに適した場所も多く、東北大学等の大学発ベンチャーの創出、成長も期待できます。

地域金融機関が果たすべき役割についてはどのようにお考えですか

金融機関が発展していくためには、まさに自分たちの地元が発展しなければなりません。地元経済が衰退すると金融機関の経営に大きな打撃を与えることになるでしょう。いかにして地元企業を支援していくかが非常に重要です。単にお金を貸すのではなく、知恵を出し、顧客企業が気づかないところを気づかせてあげる、困っているところをいかにコンサルティング的な形で問題解決に導くかが問われています。金融機関自体がDX等を先んじて行っていますので、そういう経験をしつ



※撮影時のみマスクを外しています

かりと顧客企業と共有することが重要でしょう。

また、地方の中小企業にとって販路開拓は難しい問題です。金融機関のネットワークを活用した販路開拓支援もこれからどんどん行っていく必要があります。今は円安ですから、地元企業のなかから海外に打って出るようにするためにも、日頃からコミュニケーションを密にした伴走支援も必要です。

幸い銀行法も改正されて金融機関が進出できる分野が拡大しています。それぐらい必死にやらないとこのままでは地域金融機関は疲弊してしまいます。貸出業務はもとより、それ以外の部分でも、地方経済を形成する役割が求められているのです。我々は全国の金融機関といろいろな情報交換を行っています。そうした情報交換のなかで得た様々な成功事例を本部の「金融高度化センター」がセミナーで紹介しています。そうした機会を通じ、金融機関の取り組みをサポートしていきたいと思っています。

物価高騰が進む東北経済の見通しについてお尋ねします

全国に比べると東北は家計におけるエネルギー支出の割合が高いため、昨今のエネルギー価格高騰が生活に影響を与えています。冬の寒さや、自動車が主な移動手段であることなどが要因と言えます。政府が電気ガス代の支援を行うことを発表していますが、このままだとこの冬の生活は相当厳しくなると思います。実際に生鮮食品を除くCPI（消費者物価指数）の伸び率も全国より高いです。全国以上にエネルギーの価格上昇が響いてCPIを押し上げていることが伺えます。

しかしながら、引き続き経済正常化に向けた観光需要等の伸びが期待されるため、新型コロナの感染状況にもよりますが、現在は雰囲気も明るくなっており、徐々に景気は改善するのではないかとみています。そのために、賃上げが加速してくれればうれしいですね。本来、賃金を上げるためには生産性の向上があってしかるべきです。生産性を向上させるために何をしたらよいかは難問であり、DX、人手不足の対応しかり、必死で企業は知恵を絞っているところです。

最後に抱負をお聞きします

注目しているのはサプライチェーンの強靱化で



す。政治的な問題も含め、今までのように中国に過度に依存することは難しいという流れのなかで、東北がサプライチェーン強靱化のための受け皿になり得ると思っています。もちろんそのためには人口減少の問題などの課題も一緒に解決しなければなりません。

サプライチェーンのコアな部分は国内に依存するべきで、東北がその対象になってほしいですし、その可能性はあると思っています。

東北は様々な面で課題先進地域と言えます。東北で成功すれば先事例となりますし、日本全体にとっても“東北に学べ”となるでしょう。観光面でも東北の魅力がまだまだ知られていない所が多いと感じています。東北には潜在力があり、伸びしろがあることは間違いないので、今後の成長を期待したいと思います。

本日はありがとうございました。

プロフィール

竹内 淳氏（昭和42年生 55才）

ドイツ（デュッセルドルフ）出身

【経歴】

1990年3月	早稲田大学政治経済学部卒業
4月	日本銀行入行
2002年5月	国際局調査役
2004年7月	国際局企画役
2005年12月	フランクフルト事務所長
2009年4月	金融市場局企画役
2010年7月	金融市場局為替課長
2012年6月	国際局アジア金融協力センター長
2014年6月	公益社団法人 日本経済研究センターへ出向
2016年6月	甲府支店長
2018年2月	静岡支店長
2020年4月	国際局参事役
2022年6月	仙台支店長